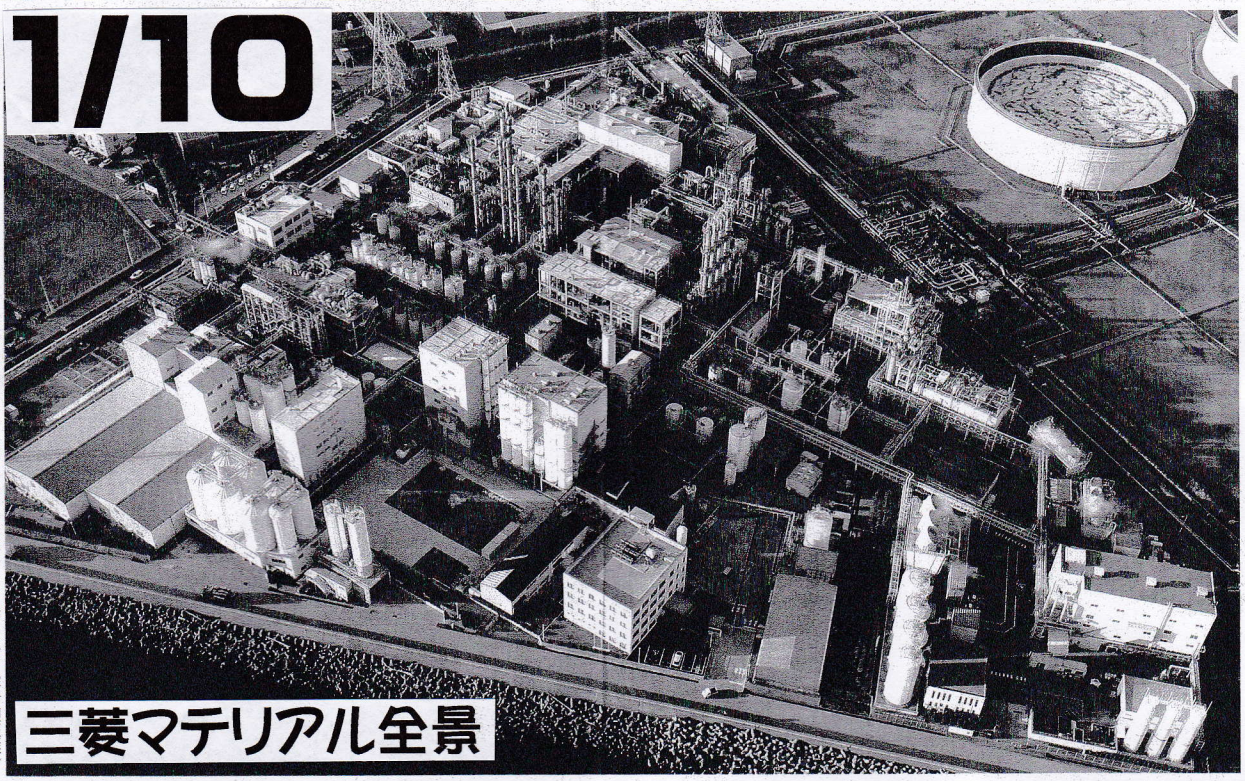
1/10



三菱マテリアル全景

爆発事故があった三菱マテリアル四日市工場＝9日午後3時49分、三重県四日市市で、本社ヘリ「まなづる」から（野村和宏撮影）

今朝NHKの7:00のニュースを聞いていたら、今回の爆発事故の原因を作業員の操作ミスのようなことを言うので、居ても立ってもおられず塩浜に向かって走りました。三菱マテリアルの正門前はパラボラアンテナをつけた中継車が早くも数台停まって、結構たくさんの報道陣らしい人たちがいました。その正門に向かって労働者がきっといつも通りでしょう列をなして出勤していました。しかし、この中に亡くなられた方の知人も何人かみえるに違いありません。（実際、私の自治会の相棒、副総代Hさんの娘のつれあいの兄が今回の爆発で命を落としていました。）

その後、図書館に行き７社の新聞記事を読みあさりました。どれもよく似た記事でした。産経新聞が一番爆発の要因をしっかり書いていたと思います。それにしても今回の事故の原因を作業員の操作ミスにして会社のコスト減や人員削減を隠し、またもや事故を繰り返されてはたまらないと思い、投書のペンを取った次第です。（写真は、朝日を浴びるマテリアルと隣接する昭四のタンク、ちょうど正門の反対側です。）

事故の深層を （中日新聞に投書）

一夜明けて三菱マテリアルの配管は隣の巨大タンクと共に朝日を浴びていました。7時30分工場に向かう労働者の列がいつものように続いています。各メディアが事実経過を報道しながら原因を考えています。もちろん正確な検証が待たれますが、気になることがあります。

初めから危険な仕事という認識は会社側にも働く人にもあったといいます。それなのに今回の事故、それは操作ミスではないかといかにも作業員の手順に問題がありそうにする声です。クロロシランは沸点 31.8℃の水反応可燃性の危険物です。今までも事故は通常運転より解体中により多く発生しています。下請け孫請けの問題と合わせて、もし手順通りに行かなくても二重三重にセーフティガードをきかせて、尊い人命を守るのが会社の役目です。

原因究明はコストや人材を削りすぎ「現場力」を低下させていないか、人は間違いを犯すものという前提で安全が図れていたか、事故の深層をより深く分析して、二度と同じ事故を起こさないように改善すべきです。

まっ、